

学生コラム 思い出のミュージアム

博物館情報・メディア論の授業の一環でコラム記事の作成を通じて刊行物の編集を体験しています

京都国立博物館



とあるゲームを発端として2015年に始まった怒涛の刀剣ブーム。私もゲームをプレイするユーザーの一人として、今年の初めに京都国立博物館で開催された特集陳列「刀剣を楽しむ」を訪れました。

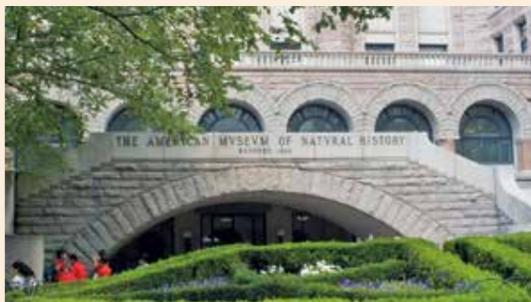
京博に行くのはこれが初めてだったのですが、館内は同じように特集陳列を見に来た人でいっぱいでした。開館後間もなくにもかかわらず展示室までは長い行列ができていて、この時点で待ち時間は120分とのこと。薄暗い館内で近くにある展示品を眺めながら待つこと90分、

やっとたどり着いた小さな展示室の中には、20振りあまりの刀剣が並べられていて、多くの人がガラスケース越しに熱心に眺めていました。刀剣の鑑賞の仕方は知らなかったけれど、何百年も昔につくられ、実際に人を切ったことのある刀剣たちが、今現在までこんなにも美しく光り輝いて存在していることに深く感動しました。写真を見ただけでは伝わってこなかったであろう、本物が持つ迫力を肌で感じる事ができ、はるばる京都までやって来た価値があったと感じました。

刀剣はそれぞれが一点物で、博物館所蔵のものもあれば個人や寺社、法人が所有している場合も多いので、それらの貴重な刀剣が一堂に会する機会は博物館にしか作れなかつたのだと思います。そして、この貴重な機会を逃すまいと、今まで博物館を訪れたことがなかった人が遠方からも多く足を運びました。きっかけはゲームでしたが、資料を後世に残す必要と難しさ、そしてそれらを公開する博物館の役割の重要性を、多くの人に知ってもらえたのではないかと思います。

(文学部人文学科歴史文化学専修コース 大東 薫乃)

アメリカ自然史博物館



私の思い出のミュージアムは、ニューヨークにあるアメリカ自然史博物館です。この博物館は、私が今までで一番多く訪れた博物館でもあり、幼い頃から毎年訪れていました。

皆さんは「ナイトミュージアム」という映画を見たり聞いたりしたことはあるでしょうか。この映画は、夜の博物館でティラノサウルスの全身骨格やモアイ像、原始人など博物館の展示物が生き返って、動き出すというファン

タジー・コメディ映画です。実はその映画の舞台になっているのがこのアメリカ自然史博物館なのです。

この博物館は4階建てでとても広く、展示数も多いので、1日で全ての展示を見終わることができません。私は恐竜が大好きで毎回必ず恐竜フロアを見ていたので、いつも少しずつしか他の展示を見ることができないほどでした。私がお次に好きだった展示は、鉱石フロアです。展示室は暗く幻想的な雰囲気、中央には座れる場所があります。そこは綺麗な石に囲まれ、とても癒される空間でした。このように展示フロア一つひとつにそれぞれの世界があり、自然とその世界へ入り込んでいけるような空間になっていたのだと思います。

ニューヨークには、メトロポリタン美術館やニューヨーク近代美術館の他、たくさんの博物館・美術館があります。学芸員を目指す方々には、ぜひ一度足を運んでみてほしいです。私もまた、今度は学芸員という視点を持って、このアメリカ自然史博物館を訪れたいと思っています。(教育学研究科発達支援学専攻 星野 一輝)

NEWS & TOPICS

第7回学芸員課程ランチタイム企画「トーク・ミュージアム」を開催

2016年7月20日(水)に、第7回目となる学芸員課程ランチタイム企画を開催。今回は、文学部学芸員課程専門委員でもある松本直子教授(考古学)により「ジェンダー視点から考える博物館展示」と題してお話いただきました。日本と世界の博物館は家族や女性、男性、性的マイノリティ等をどのように扱ってきたのか、様々な事例をふまえてディスカッションしました。



トーク風景(松本直子先生)

07 Aug. 2016 学芸員課程 Newsletter

Newsletter from Course for Prospective Museum Workers, Faculty of Letters, Okayama University

編集・発行: 岡山大学文学部学芸員課程 (編集 光本 順) 発行日: 2016年8月26日 文学部学芸員課程 Web Site http://www.okayama-u.ac.jp/user/pmww

contents

- 特集 卒業生とのネットワーク 光本 順…………… 1
- 先輩学芸員にきこう! 群馬県立歴史博物館 飯田浩光さん…………… 2・3
- 学生コラム 京都国立博物館 大東 薫乃…………… 4
- 学生コラム アメリカ自然史博物館 星野 一輝…………… 4
- NEWS & TOPICS…………… 4

本号では岡山大学を卒業した現役学芸員の方の経験にスポットをあてます。学芸員課程 Newsletter では、これまで「先輩学芸員にきこう!」というインタビューコーナーを設けてきました。これは卒業生の学芸員の方に、博物館概論受講生(文学部、理学部、教育学部ほか)から寄せられた質問に答えていただくものです。今回は2016年7月にリニューアルオープンした群馬県立歴史博物館学芸員の飯田浩光さんに登場いただきました。オープン直前のご多忙の折り、質問に丁寧に答えていただいたことに学生・教員一同、感激しています。

Newsletterで卒業生にお願いするのは、主に二つの理由があります。ひとつは、学生が学芸員について具体的にイメージするうえで、卒業生の経験が説得的で有効となる点です。インタビュー内容をもとに授業を行っていますが、例えば授業時に学生が書いたお礼のメッセージにもそれが表れています。二つ目の理由は、卒業生と学芸員課程がつながる機会を作ること自体に意義があるからです。学芸員や関連する職は多岐の分野にわたる

ため、卒業生と母校とのつながりは個別の専門分野に限られがちです。また学芸員資格取得のための科目が昨今増加したように、学生時代の学びの量も内容も年代によって大きく変化しています。すなわち学芸員課程に対するイメージもかつての卒業生と現在の在大学生とで大きく異なるでしょう。学芸員課程と卒業生のネットワークの強化が、次世代育成の面で、大学教育と博物館の双方にとって実りあるものとなることを願っています。(文学部准教授 光本 順)



リニューアルした展示室にて

群馬県立歴史博物館学芸係主任(学芸員) 飯田 浩光さん プロフィール

- 1980年 静岡県三島市生まれ
- 2002年 岡山大学文学部歴史文化学科卒業
- 2005年 岡山大学大学院文学研究科修了(考古学)
- 2005~2007年 岡山県古代吉備文化財センターに調査員(嘱託)として勤務
- 2007~2010年 財団法人大阪府文化財センターに専門調査員(嘱託)として勤務
- 2010~2015年 大阪府立近つ飛鳥博物館に学芸員(嘱託)として勤務
- 2015年より群馬県立歴史博物館に学芸員として勤務
- 専門は日本考古学(古墳時代)
- 担当した主な展覧会/「王と首長の神まつり」(2012)・「考古学からみた推古朝」(2013)(いずれも近つ飛鳥博物館)

学生のみなさんへ ー飯田学芸員からのメッセージー

私は、正規の学芸員になるまで苦労しましたが、片時もあきらめたことはありませんでした。学芸員の募集は少ないですが、募集があれば試験はどんどん受けてください。合格しなくても試験を受けることにどのように勉強していけばいいかわかるようになります。そして岡山大学で学んだことは絶対生きてくると思いますので、それを糧に頑張ってください。

特集

卒業生とのネットワーク

博物館概論受講生による卒業生へのインタビュー

先輩学芸員にきこう！

群馬県立歴史博物館
学芸係 主任(学芸員)
飯田 浩光 さん

特集

I 学芸員への道のり

なぜ、いつごろから学芸員になろうと考えましたか。何かきっかけはありましたか。

自身の専門が考古学ですので、専門性を生かせる職業に就くことができると考えていました。大学に入ってから、学芸員になれればと考えるようになりました。

学芸員になるにあたって苦労したことは何ですか。

募集が少なく、また試験を受けはじめたころは専門以外の一般教養の勉強が不十分でしたので、苦労しました。

学芸員の職は募集が少ないと聞きますが、実際はどうでしたか。

募集は少なかったのですが、試験の情報などをインターネットで積極的に入手するよう努力していました。

学芸員になるための特別な勉強法はありますか。

まずは自身の専門性を高めることが重要だと思います。

学芸員採用試験はどういった内容になりますか。公立博物館の場合、公務員試験の勉強も重要ですか。

博物館によって違うと思いますが、大抵は一般教養と専門分野の筆記試験と面接の組み合わせです。一般教養は公務員試験の地方上級と同じレベルですので、しっかり勉強

I 学芸員の仕事

博物館の基本的機能である資料の①収集、②整理・保存、③調査・研究、④展示・教育について、およそどれくらいの比率で仕事をされていますか。

現在はリニューアル準備中ですので、展示（制作）が6割、整理・保存が3割、調査・研究が1割ぐらいだと思います。一日の主な業務について教えてください。

現在はリニューアルオープン前ですので、展示制作を中心にしています。展示制作の合間にも写真資料などの貸出の対応や資料の収蔵管理の仕事など、様々な仕事をこなしています。

群馬県立歴史博物館はリニューアルによってどのような博物館を目指しますか。

群馬県の歴史・文化の情報発信拠点として、人と地域をつなぐ博物館を目指します。（当館の『紀要』第35号やホームページをぜひご参照ください。）

群馬県立歴史博物館にはどのくらいの人数のスタッフが働いていらっしゃるのですか。

27名です（嘱託の方も含めた人数です）。

学芸員の仕事で最も忙しいのはどのようなときですか。

企画展などを担当した際の、他館などからお借りする資料の交渉や、展示図録の原稿の締め切り直前のときなどです。

週休何日ですか。残業はありますか。

公務員なので週休は二日です。現在は常設展示を制作しており、休日返上で作業をしています。時間外にする仕事も多くあります。

しておく必要があります。

学芸員になるためには大学院へ進学するべきですか。

自身の専門性をさらに高められるため、進学をお勧めします。学芸員を目指す上で学生時代にぜひ行うべきことはありますか。

問題意識をもって博物館や美術館を訪れてみてください。任期付き職員と正職員とで仕事内容の違いはあるのですか。

博物館によって違うと思いますが、私が任期付き職員として以前勤務していた博物館では、ほぼ同じ内容でした。

学生の頃、どのくらいの頻度で博物館に行っていましたか。

それほど頻繁には行っていませんが、自身の専門分野に近い展示などは極力足を運ぶようにしていました。

学芸員向きの素質があるとすればどのようなものですか。

いろいろなことに積極的に関心を持つとすることが重要だと思います。また素質よりも、なりたいという意思を持ち続けることが重要だと思います。

現代の学芸員にはどのような資質が求められますか。

最近では3Dなどデジタル技術が飛躍的に発達しており、資料の記録や展示での活用が進んできていますので、自身の専門分野が文系である場合でも、最新の技術にも関心を持つておく必要があると思います。

一番苦労した業務は何ですか。

展示会を企画した際に、他の所蔵先から資料をお借りすることが最も気を使う必要がある、大変な仕事です。借用から返却の時まで、資料を破損させないよう安全にこりあつかわなければなりません。

学芸員の仕事にやりがいを感じるのはどのようなときですか。

来館者の方に展示を理解していただき、面白いと思っていただいたときです。

学芸員として働く上で最も気をつけているのはどのようなことですか。

資料を安全に取り扱うことです。展示資料や収蔵資料の管理、展示室や収蔵庫の温湿度の管理には日常的に注意していますし、他の所蔵先から資料を借用する際には毀損など生じないように細心の注意を払います。

学芸員の実際の仕事において、1つの専門分野を極める方向性と幅広い専門分野を学ぶ方向性のどちらが大切ですか。

どちらの方向性も重要だと思います。バランスよく進めていければいいのではないのでしょうか。

仕事の役割り分担などはありますか。

職務の分担はあります。私自身の現在担当している仕事は、常設展示制作の他、考古資料の管理、重要文化財の管理、日常的な温湿度の管理の他、書類の更新の手続きなど行っています。

学芸員ひとりの仕事の負担や責任は大きいですか。

企画展を担当した際など、責任は基本的に担当者にあります。

学芸員にはマネジメント能力も必要とされますか。

必要だと思います。企画展を担当するときなど、学芸係内

で協力を仰ぎながら進めますし、地元の研究者と共同で検討会を開催したりと、様々な方々とコミュニケーションを取りながら進めていく必要があります。

自分の専門分野以外の資料を扱うこともよくあるのですか。

頻繁ではありませんが、ありますので、例えば考古資料が専門であっても卷子や掛け軸など扱えるよう習熟しておく必要があります。

資料収集に関して、資料の受け入れは学芸員の意見で決定することができるのですか。

上司や幹部職員の方々に伺いを立てる必要がありますし、学芸員の意見のみでは決められません。

もし学芸員が資料を破損してしまったら、どのような事態が生じるのでしょうか（始末書等）。

借用している資料を破損してしまった場合は、修理することが求められます。ですので、借用の際は、細心の注意を払うとともに、保険を掛けます。それよりもまず、資料にヒビが入ると同時に、信頼関係にヒビが入りますので、事故が生じないよう危機管理の意識を持ち、万一、生じた場合は誠意をもって速やかに対応する必要があります。

収蔵スペースは不足していますか。その場合にどのような対策がなされていますか。

現在のところ不足はしていません。

自分の個人的研究にはどれくらいの時間を費やすことができますか。

ここ最近では常設展示制作でほとんど余裕がありませんでしたが、リニューアルオープン以降はあると思います。あるというよりむしろ時間を作るよう努力する必要があると考えています。

学芸員同士で研究を高め合う機会はありますか。

他館と連携して展示を企画する機会があり、研究を高め合う機会になります。また自身の専門分野における学会に参加することで、専門性を磨くことも求められます。

学芸員と研究者とで違いはあるのでしょうか。

学芸員は研究者であるとともに、自身の研究内容を踏まえ展示内容を来館者の方にわかりやすく伝えるなど、社会と専門的な研究世界とをつなぐという重要な役割を担っていると思います。

1つの企画展や特別展の準備期間はどのくらいですか。

博物館によって違うと思いますが、また展示の規模やテーマによっても変わってくると思います。以前勤務していた博物館では、特別展を半年前ぐらいから準備していました（かなりタイトでした）が、通常は一年前ぐらいから準備し始めるようだと思います。

人文・自然系の融合的な展示を企画することもありますか。

今のところありませんが、将来そのような企画の展示ができたらと考えています。

展示企画のアイデアはどのようにして出すのですか。

自分の専門分野で材料を探しますし、また他の博物館の過去の展示図録を参照したこともあります。

展示方法についてはすべて学芸員が決定するのですか。

博物館によって、また展示の性格によって異なると思いますが、現在取り組んでいる常設展示制作では、県内の第一線で活躍されている研究者の方々で構成する外部検討委員会を立ち上げ、ご教示いただきながら検討を重ねました。どのようなテーマや内容の展示を今後企画したいですか。あるいは、もし自由に展示ができるとしたらどのような内容の展示ですか。

自身の専門である古墳時代の資料の展示が企画できればと思っています。もしそのような企画が可能であれば、地域の資料ばかりでなく、当時の中央との結びつきや日本列島全体から地域をとらえる視点を意識して展示を構成できればと考えています。

多様な来館者への対応はどのようになされますか。

海外からの来館者への対応ということであれば、常設展示では、解説パネルのタイトルについては、英語、中国語、韓国語を表示する予定です。

他の博物館・学芸員との日常的な連携・交流はありますか。ある場合にはどのようなものですか。

企画展などで他館と連携することがあります。また、業務上で疑問点などが生じれば、同じような問題を抱えている博物館に問い合わせたりもします。

業務の一環で海外の博物館に行くことはありますか。

今のところありませんが、可能であれば行ってみたいと思っています。

学芸員になる前と後とで、学芸員の仕事に対するイメージは変わりましたか。

変わりました。なる前はこれほど忙しく多岐にわたる仕事とは思っていませんでした。

現役学芸員の視点から見たオススメ博物館はありますか。

群馬県立歴史博物館は平成28年7月23日（土）にリニューアルオープンしますので、ぜひご来館ください。



群馬県が誇る豊かな古墳文化

特集